

## 核兵器のない平和で公正な世界のために 原水爆禁止 2019 年世界大会へ 参加と賛同のよびかけ(確定)

2019 年 2 月 12 日

原水爆禁止世界大会実行委員会第 83 回総会

広島と長崎への原爆投下から 74 年の夏を迎えようとしています。私たちは、この 8 月、両被爆地で「核兵器のない平和で公正な世界のために」をテーマに原水爆禁止 2019 年世界大会を開催します。

2020 年、被爆 75 年の節目の年を前に開かれる今年の世界大会は、「生きているうちに核兵器のない世界の実現を」という被爆者の願いをかなえるうえで、これまでもまして大きな意義をもっています。日本全国からそして海外から多くの方が参加され、賛同を寄せて下さるよう、心からよびかけます。

被爆者を先頭とする国内外の運動がますます重要になっています。被爆地でひらかれる世界大会は、「核兵器と人類は共存できない」との被爆者の願いやたたかい、被爆の実相を世界に発信する場として、特別の意義をもっています。

この被爆者や市民の声を力に生まれた核兵器禁止条約は、着実に調印・批准国が増えています。核保有国や「核の傘」の国々でも、議会や世論による禁止条約への支持が増えています。核兵器禁止に背を向けるのは、核保有国の政府など、ほんの一握りです。

核保有国政府の姿勢が厳しく問われています。核保有国による、新たな核軍拡や核使用の姿勢は断じて許されません。核保有国は、「核兵器のない世界」の実現を願う圧倒的多数の声に向き合い、核不拡散条約(NPT)再検討会議などで自らが合意してきた核兵器廃絶の誓約を果たすべきです。

世界大会は、国際機関、政府、自治体など公的機関、内外の草の根の運動と市民社会、被爆者や核被害者など広範な国際的な共同を築く場です。2020 年 NPT 再検討会議を前に、核保有国に対して核兵器禁止を求める世界的な共同を大きく発展させる世界大会にしようではありませんか。

非核平和をねがう人々の声と行動は、朝鮮半島にも響き、2 月末に 2 回目の米朝首脳会談が開かれます。朝鮮半島の非核化と平和体制づくりへ、アジアの草の根の連帯を強めましょう。

安倍政権は、アメリカ・トランプ政権の核戦略に追従し、核使用政策である「核の傘」に依存するなど、被爆国にあるまじき態度をとっています。しかし、「ヒバクシャ国際署名」は 830 万人以上が賛同し、核兵器禁止条約の調印・批准を日本政府へ求める意見書を採択する自治体議会が増えています。

原発ゼロ、沖縄・辺野古新基地建設ストップ、安倍政権による 9 条改憲 NO などで、広範な共同が生まれています。市民と野党の共闘を発展させ、安倍政権による政治を変えようという流れも広がっています。原水爆禁止世界大会は、これらの運動と連帯し、共同を発展させる重要な場でもあります。

原水爆禁止 2019 年世界大会は、核兵器禁止条約に参加する非核平和の日本、憲法がいかされる日本の実現へ、従来の垣根を越えた共同をさらに発展させ、国民的な原水爆禁止運動をめざします。

大会まで 6 か月を切りました。大会成功のカギを握る参加の準備をただちに始めましょう。とりわけ、若い世代や女性の役割が重要です。被爆 75 年に向けた壮大な運動をすすめるために、力をあわせることを心からよびかけます。